

BCJ-SAR

ISO だより

Vol.29



財団法人 日本建築センター システム審査部

〒101-8986 東京都千代田区外神田 6-1-8

TEL 03-5816-7522

FAX 03-5816-7544

ホームページ <http://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISO だよりの所有権はシステム審査部に帰属します

我が社のISO(その26)

株式会社 藤木工務店

代表取締役社長

藤木 玄三



『我が社のISO “適合から有効性へ”』

当社は、大正9年の創業以来「顧客第一主義」の経営理念のもと、「信頼に誠意と技術で応える藤木工務店」を経営方針として、銀行・医療福祉・文化財・宗教施設など数々の用途の建築を手がけてきました。これからも建築の設計、施工を通してお客様の満足度を最大限高めていくことが当社の存在価値と考えています。

この経営理念の基で更に顧客満足を向上させるため、ISOへの取組みを決定し、1998年に営業店単位の認証取得から始め、2003年に全社統一したISO 9001:2000認証を取得しました。また、2008年にはISO 14001認証を取得し、統合マネジメントシステムとして運用を行っています。いずれも当社独自のシステムを構築し、経営の柱としてマネジメントシステムを運用してきました。

当初は、文書や記録を始めとした業務の増大などに対する負荷も大きく、定着までには時間を要しましたが「顧客満足の向上」に焦点を当てること、また、内部監査の充実などで社内に浸透させ、現在では業務に定着し、特にここ数年、顧客満足度の向上、不適合製品の減少、ク

レームの減少などマネジメントシステムの成果が目に見える形で確認できるまでに至っていません。

年に1回受審するサーベイランスでも、指摘事項は少なくなり、システムに適合した運用は満足できる段階になったと感じております。反面、継続的改善活動に関する是正・予防処置やPDCAサイクルのAの活動などまだまだの面もあります。

このような状況の中、いわゆる形骸化の予防の観点からも昨年から“適合重視から有効性重視のシステムへの変革”を掲げ、各プロセスのパフォーマンスを測定することで問題点を発見し、継続的改善に繋げるため、また、利益の向上にシステムを有効に活かすことを目的に、今年度システムの大巾な改定を行い、有効性・効率性重視のシステム運用に取り組んでいるところです。

また、今年度の経営方針のテーマに「ひとつひとつの仕事の完成度を高めよう」を掲げ、仕事のパフォーマンスを重視した活動を行うことで、品質・環境方針の達成はもちろんのこと、会社の質の強化につなげたいと考えております。

株式会社 藤木工務店の概要

◆沿革

大正9年11月 藤木工務店創業

平成10年10月 ISO 9001 認証取得(東京支店)

平成15年10月 ISO 9001:2000 全社統一

平成20年10月 ISO 14001 認証取得

◆主な業務内容：建築物の設計、工事監理および施工

◆所在地：大阪府（本社）

審査員の目(その29)

長原 直樹

システム審査部
登録審査員
JRCA登録主任審査員
CEAR登録主任審査員



『オモシロQMS！
ISO 9001 規格の役立つ使い方を
ご紹介いたします。』

1. ご飯とおかずと「マネジメントレビュー」

5.6.2 は「マネジメントレビューへのインプットには、次の情報を含めなければならない」と定めています。つまり、主たる情報を収集し、そこに次の情報として規格要求事項 a)～g)を含めると考えたら如何でしょうか。

経営者なら会社の実情、社会情勢、受注見込み等は当然知りたいと思いますよね。その「主な情報」を主食つまりご飯と言い換えると「次の情報」はおかずとも言えます。「マネジメントレビューへのインプットは、次の情報だけで行う」とは書かれていませんね。

2. 勝ち残りが確信できる「力量、教育、認識」

6.2.2 d)には「組織の要員が、自らの活動の持つ意味及び重要性を認識し、品質目標の達成に向けて自らがどのように貢献できるかを認識することを確実にする」と定めています。

このことを社員に問いかけて、経営者の期待どおりの答えが返ってくれば、御社の勝ち残りが確信できますね。

一方、期待どおりの回答が得られなかった場合には是正処置が必要ですね。要求先は、もちろん認識させていない「組織」あるいは「上司」になると思います。

3. 利益の確保と「妥当性確認」

7.5.2 は「それ以降の監視又は測定で検証することが不可能で…」と記述されているためか、後から検証することが可能なプロセスは対象外になり、溶接などに限定されている例が多いよ

うです。

しかし重大なミスが発生すると工期、利益、信用等に悪影響を与えます。

現場代理人、営業マンなど社外で働く要員は、資格以外に人間性、経験など事前に適格性を検証した後に配属していると思います。また、施工計画など事前準備も重要ですね。

後からの検証は可能であるが、リスクを回避し、利益を確保するために7.5.2は役立つように思えます。

4. 戦艦大和と「プロセスの監視及び測定」

8.2.3 は「QMSのプロセスを監視及び測定すること」と定めています。対象となるプロセスの中にマネジメントレビュー、内部監査も含まれているのでしょうか。

戦艦大和の悲劇を繰り返さないためにも経営者や管理責任者が主となって行う「マネジメントレビューと内部監査」のプロセスの監視及び測定をお勧めします。

5. 坂の上の雲と「予防処置」

歴史上の出来事はやり直すことができない以上、つねに未来への教訓を探し出すほかはありません。同じ努力をするなら起きた問題の解決よりも、問題が起きないように活動する方が、やりがいがあります。

先人は段取りの大切さを教えてくれました。また、QMS規格の最終章は「8.5.3 予防処置」です。

十分な段取りによって、「坂の上になびく一筋の雲」を目指して行きたいものですね。

■今後開催される認証判定会議の 日程は下記の通りです■

品質、環境とも同日開催です。

2010年(平成22年)	
11月24日(水)	13:00～
12月22日(水)	13:00～
2011年(平成23年)	
1月26日(水)	13:00～
2月23日(水)	13:00～
3月16日(水)	13:00～

(財)日本建築センター(東京都千代田区)にて開催致します。

■再認証を迎える組織の皆様へ お知らせ■

審査時期によっては、審査が混み合う事が予想されますので、余裕をもって再認証申請書(品質)又は再認証申請書(環境)をご提出いただきますようお願いいたします。(再認証申請書の他に「申請者調査表」の提出が必要になります。)

申請書及び調査表は(財)日本建築センターホームページ(<http://www.bcj.or.jp>)よりダウンロードしていただきますようよろしくお願いいたします。

なお、ご不明の点等がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

システム審査部
TEL : 03-5816-7522
FAX : 03-5816-7544



編集後記

今年の夏の猛暑もようやく終わり、事務所内でも「暑いですね」の会話もめっきり減りました。最近はようやく秋らしい天気になってきました。天気予報によると、それでも平年の気温よりまだ高めらしいです。

これからは、夏の疲れが出る時期とのもので、皆様方におかれましては体調管理にはくれぐれもご注意下さい。

システム審査部では、品質マネジメントシステム及び環境マネジメントシステムについて本年7月に公益財団法人日本適合性認定協会によるサーベイランスを受けました。その結果、環境マネジメントシステムについては8月24日付けで、品質マネジメントシステムについては10月13日付けで、それぞれ認定の継続が承認されました。

引き続き審査員、システム審査部職員共に皆様のお役に立てるよう努力していくつもりであります。

品質マネジメントシステム新規認証組織紹介（2010年4月～10月）

認証番号 (BCJ-QMS)	事業所名	主な所在地	認証された品質マネジメントシステム
0882	株式会社 福田組	福岡県小郡市	土木構造物の施工
0883	株式会社 堂菌組	鹿児島県南九州市	土木構造物の施工
0884	大平開発株式会社	宮崎県串間市	土木工事の施工
0885	株式会社 東洋ハウジング 本社	千葉県鎌ヶ谷市	建築物の設計、工事監理及び施工

環境マネジメントシステム新規認証組織紹介（2010年4月～10月）

認証番号 (BCJ-EMS)	事業所名	主な所在地	認証された環境マネジメントシステム
0165	株式会社 堂菌組	鹿児島県南九州市	土木構造物の施工
0166	城北建設株式会社	香川県高松市	土木構造物の施工及び建築物の施工